第 169 号 - IEEE 東京支部　（Tokyo Bulletin）

［2025 年 12 月 11 日］

# IEEE R10 HTC2025 開催報告

東京支部が主催の IEEE R10 HTC2025 (Humanitarian Technology Conference)が、2025 年 9 月 29 日（月）~10 月 1 日（水）において、千葉県市川市にある千葉商科大学にて開催されました。今回のテーマは「知的なパートナーとともに迎える新たな人道支援の時代」でした。事前には 230 名が参加登録を行い、会場には 207 名の参加がありました。このうち海外からは 17 か国・地域から 69 名の参加者がありました。

HTC は、IEEE Region 10 (R10)のフラグシップ国際会議の 1 つで、2013 年に仙台支部において、2011 年に発生した大地震からの復興を目指した取り組みを中心に検討する場として、R10 では初めて開催され、その後 R10 の各国での開催を重ねて、この度日本で 2 回目の開催となっています。2023 に行なわれた候補地選定においては、R10 の 3 支部が立候補しましたが、提案の内容や具体的な計画性が評価され、2024 年 1 月に開催地として選ばれました。

全体会合では、いずれも Humanitarian Technology (HT)に関わる内容で、IEEE 関係者から 4 件、IEEE 以外からは 3 件の基調講演を含む 5 件の講演があり、合計で 9 件の講演がありました。

研究発表は、121 件の投稿論文の中から厳正なる査読を通じて採録された論文や招待講演などの発表の場として、1 つのポスターセッションと 10 の口頭発表セッションの合計 11 のセッションで 64 件の発表がありました。これらはいずれもとても質の高い論文でしたが、この中で特に優秀な論文に対して、総合論文賞、WIE (Women in Engineering)論文賞、学生論文賞など合計 7 件が表彰されました。一方、ワークショップやチュートリアルなどの提案企画による企画セッションは、R10 の会員を中心に HT に関わるユニークな提案が集まり、会場では 16 のセッションが行なわれました。

会議の実施にあたっては、5 つの組織から助成金を受けたほか、7 つの組織からスポンサーシップを受けることができましたことを大変感謝しています。また、これらスポンサーを含む 8 つの組織が会場にて展示ブースを出展し、取組等を参加者にアピールしていました。

このほか、会場となった千葉商科大学(CUC)では、学内で消費する以上の電力を太陽光パネルなど

の学内設備でまかなう「100％自然エネルギー大学」を特徴としており、その関連施設を訪問する「CUCツアー」が実施されました。

尚、第 1 日の夕方には、千葉商科大学内のカフェテリアにてレセプションが、第 2 日の夕方にはホテルに場所を移してバンケットが行われ、バンケット内では論文賞の表彰式やゴールドスポンサーへの感謝状の贈呈も行われ、参加者同士の交流も活発に行われました。

（報告：HTC2025 運営委員会/実行委員会共同委員長　滝嶋康弘）

# HTC2025 [Luncheon Seminar]
# Taste & Talk: SIGHT Members Around the World の開催

2025 年 9 月 28 日に、IEEE Tokyo SIGHT によるイベントとして、[Luncheon Seminar] Taste & Talk: SIGHT Members Around the World を、千葉商科大学にて開催した。本イベントは、9 月 29 日から 10 月 1 日に千葉商科大学にて開催された IEEE R10 HTC2025（Humanitarian Technology Conference）に提案したワークショップの 1 つであり、HTC2025 の最初のセッションとして実施された。

当日、参加者は最適化栄養食である「完全メシ」を自ら調理、喫食しながら、まず Tokyo SIGHT Chair 鈴木麻由美氏による IEEE および SIGHT（Special Interest Group on Humanitarian Technology）に関する概要説明を聞いた。続いて、一般社団法人日本最適化栄養食協会（Japan Optimized Nutri-Dense Meals Association)から事務局長 前島秀樹様をお招きし、「最適化栄養食の概要と災害時等の栄養課題について」と題する講演が行われた。講演は日本語から英語への逐次翻訳の実施により、HTC2025 からの参加者に対しても広く参加いただくことができた。また、当日は、当協会のご厚意により、完全メシのカレーメシおよびハヤシメシ各 50 食を提供いただいた。

日本最適化栄養食協会は、主要な栄養素がバランスよく適切に調整された最適化栄養食の普及を図り、人々のウェルビーイングに資することを目的として設立された協会である。講演では、肥満、若者や女性に顕著な低栄養、高齢者のフレイルを主な対象とした、疾病の発症を未然に防ぐことを目指した最適化栄養食の普及活動の紹介がなされた。さらに、各都市との災害協定の締結状況や被災地での食に関するアンケート結果など、災害時の栄養の偏りや選択肢の少なさに着目した活動も紹介された。質疑も時間いっぱいまで活発に行われ、提供された食事の原材料表示に基づく質問や、個々人の栄養状態に応じた最適化の可能性についてなど、踏み込んだ質問も多かった。

参加者は合計 108 人であり、そのうち 29 名は 13 か国からの参加者であった。提供した食事は参加者全員が完食しており、講演内容のみならず食事も楽しんでいただけた様子がうかがえた。イベントタイトルの狙い通り、国境を越えて Taste&Talk していただくことができた。

本イベントの開催にあたり、多大なご支援を賜った前島様をはじめ、日本最適化栄養食協会の皆様に、心より感謝申し上げる。

※一部の参加者には、完全メシではないものの長期保存が可能なインスタント食品である、ハラル認定食やベジタリアンフレンドリー食を提供した。

日本最適化栄養食協会：https://www.saiteki-eiyo.org/

IEEE Tokyo SIGHT：https://sites.google.com/ieee-jp.org/tokyo-sight/home?authuser=0

鈴木氏による IEEE Tokyo SIGHT の紹介と前島様による招待講演の様子

講演者と主催者の集合写真

全参加者との集合写真

（報告：IEEE Tokyo SIGHT Chair 鈴木麻由美）

# HTC2025 [Special Session]
# “Redefining Tomorrow: Beyond SDGs Challenges” (LMAG)

HTC2025 における LMAG トラックとして”**Redefining Tomorrow: Beyond SDGs Challenges”**というタイトルのスペシャルセッションが開催された。このセッションでは、**2050 年までに社会実装を目指す大規模な研究プロジェクト**に焦点を当て、その**目標と実現可能性**について議論が行われた。

特に、内閣府の**ムーンショット型研究開発プログラム**から以下の 5 名のプログラムディレクターを招き、それぞれの研究プロジェクトについて発表が行われた。

- **萩田紀博氏**：人が身体・脳・空間・時間の制約から解放された社会の実現
- **福田敏男氏**：AI とロボティクスの共進化により、自律的に学び、人と共生するロボットの実現
- **山地憲治氏**：地球環境の回復に向けた持続可能な資源循環の実現
- **北川勝浩氏**：経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータの実現
- **吉田善章氏**：核融合エネルギーの多面的な活用により、資源制約から解放され地球環境と調和する活力ある社会の実現

セッションでは活発な議論が行われ、非常に有意義で実り多いものとなった。

（報告：Life Members Affinity Group-Tokyo Chair　林　秀樹）

# HTC2025 [Special Program]
# WIE Session 開催報告

東京信越 WIE では、東京支部主催 IEEE R10 HTC2025 の２日目、9 月 30 日 13:30～15:00 に、R10 WIE Committee のご協力のもと、WIE セッションとして Special Program “Empowering Women in Engineering: Shaping the Future Through Science and Technology”を企画運営しました。本セッションでは、湯田 恵美 教授（三重大学 半導体・デジタル未来創造センター／東北大学 大学院工学研究科）を講師にお迎えし、“Women in Biomedical Engineering: Fostering a Balanced and Innovative Future”と題したご講演をいただきました。また、WIE Activity Showcase として、IEEE Region 10 WIE ATHEnA Project #1 finalist である Sujata Saini 氏から、HAMI: Connecting Generations Project の取り組みについてご紹介いただきました。その後、湯田先生、Saini さん、東京信越 WIE 役員の大倉典子先生（中央大学研究開発機構）をパネリストとして、女性活躍に向けた課題について議論が行われました。セッションには国内外から約 20 名の聴講者が参加し、各パネリストを取り巻く現状に触れながら、解決策や今後の在り方について、活発な質疑応答が交わされました。

また、同日夜、東武ホテルレバント東京で開催されたバンケットでは、HTC2025 の採択論文の中でも、筆頭著者かつ発表者が女性である論文のうち、特に優秀な論文に対し、以下の賞が授与されました。受賞者には、賞状とともに東京信越 WIE より記念品が贈呈されました。

- HTC2025 WIE Paper Award: Wai Yie Leong. “Drone Swarms for Post-Disaster Search and Rescue in Remote and Inaccessible Areas”
- HTC2025 WIE Student Paper Award: Nazia Sultana Plabon. "Blockchain-Secured Federated Learning for Energy Forecasting in Steel Manufacturing"

（報告：HTC2025 運営委員会/東京信越 WIE Chair 野中誉子）

## 2025 年 第 5 回東京支部講演会開催

東京支部 TPC（Technical Program Committee）主催により、2025 年 9 月 18 日（木）15:00～16:30、バーチャル会議システム「Zoom Webinar」を用いたオンライン形式で、2025 年度第 5 回東京支部講演会を開催いたしました（共催：IEEE 関西支部 TPC、IEEE 東京支部 LMAG（Life Members Affinity Group）、協賛：電子情報通信学会）。当日は約 80 名の参加があり、盛況のうちに終了しました。

本講演会では、三菱電機株式会社 先端技術総合研究所 センサ情報処理システム技術部長であり、2024 年に IEEE Fellow を受賞された亀山俊平氏を講師としてお迎えしました。

「風計測におけるイノベーション ～“光ファイバ型ライダー”とともに体感した技術開拓から普及に至るプロセス～」と題したご講演では、最先端技術の一つである光ファイバ型ライダーの開発背景から、風計測分野への社会実装に至るまでの道のりについて、亀山氏ご自身の豊富な経験を交えながらご紹介いただきました。

研究開発における挑戦や技術開拓の過程、普及に立ちはだかった壁とそのブレークスルー、さらには国際標準化から市場化への展開など、示唆に富んだ内容に参加者一同深い感銘を受けました。講演後には活発な質疑応答が行われ、「開発から普及までの貴重な経験談を聞けた」「重要な技術進歩の歴史を分かりやすく学べた」といった声が多数寄せられ、大変有意義な時間となりました。

今後も、ハイブリッド形式やオンライン形式を活用した講演会の開催を通じて、より多くの方々にご参加いただけるよう努めてまいります。最後に、本講演をご担当いただいた亀山様、ならびにご参加・ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

（報告：Technical Program Committee Secretary 原 紳介）

# IEEE東京支部事務局からのお知らせ

Tokyo Bulletin はメールにて発行させて頂いております。

2025 年のメンバーシップ更新はお済みでしょうか？本部ホームページからオンラインで 更新手続き ができます。

東京支部では会員の皆様のシニアメンバーへのアップグレードを推奨しております。本部ホームページ上で Online 申請 ができます。 詳細については Senior Member 申請方法 をご参照ください。

住所等のご変更は、必ず IEEE 本部に届け出てください。 Web Account にサインインし、Profile メニューからのご変更が可能です。

会員の皆様からのご意見、ご要望などのお問い合わせは tokyosec@ieee-jp.org までお願いいたします。